

2017年度 活動テーマ候補(関東支部)

キーワード	募集対象	テーマタイトル案	活動内容(案)	
1	ロボット	ユーザ企業の情報システム部門	その仕事代わりに引き受けます! 社内業務に活用するロボット	今更言うまでも無いが、日本は少子高齢化により労働力人口の不足が問題となっている。国力を維持するためには、1人当たり生産性を向上させ、限られたリソースを有効活用する事が必須となる。 本活動では、一般企業における生産活動において、ロボットが人間に代わって活動できる分野について検討し、その技術の活用により実現できる生産性向上案について提言する。
2	人工知能(AI)	ユーザ企業の情報システム部門	あなたの会社で「本当に役立つAI」とは? 新しいサービスは創れますか	将棋やチェス、そして囲碁まで、人工知能(AI)が人間の頭脳を上回るシーンが目立ってきている。ビジネスの現場においても、業務課題の解決や改善に一役買ってくれるのではないかを練る声も聞こえてきている。 この可能性を探り、提言する。
3	クラウド	ユーザ企業全般の業務システム担当 (インフラ、システム開発)	企業業務システムでのパブリッククラウド 利用によるメリット・デメリットおよび ビジネスモデルについて	企業のITインフラの選択としてパブリッククラウドの利用が普通に検討される中、企業の業務システムにパブリッククラウドを利用するうえでのメリット、デメリット、利用上での注意事項、セキュリティ、リスクを整理して、パブリッククラウドに向くシステムを考え、新たなビジネスモデルの創造を検討する。
4	システム本番運用直後、リスク対応、緊急時体制	情報システム部門、IT企業	システム本番運用直後の問題 についてのリスク洗い出しの方法と 対応準備体制(緊急対応体制) について考える	システムの本番開始直後には予期せぬシステムの不具合、移行データ不備による動作不良、また運用面ではユーザ操作ミス、運用ミスなど発生する可能性が高く、そのシステムの性格によっては社内外に大きな影響を与える。問題が発生した場合にそれに対応するために事前に準備すべきこと(リスクの洗い出し、対応体制の整備など)について事例調査、研究を実施する。
5	働き方改革	ユーザー企業の情報システム部門	働き方改革へのITの果たす役割	国の人口減少が進む中で、「働き方改革」は早期実現が必要な重要課題である。 これまでもITは仕事の生産性向上に大きく寄与してきたが、働き方の質を大きく変えることは少ない。働く場所や時間、コミュニケーション方法、デバイスなどの変化に対応した改革が必要になっている。 以前からシンクライアント、UC、テレプレゼンスなどのソリューションが存在するが、現在はスマートフォンなどのモバイルデバイスを中心においた働き方への見直しが必要である。 技術革新が進むモビリティの面からどのように活用シーンが変化し、そこでITがどのような役割を果たすことができるのかについて提言する。
6	セキュリティ	ユーザ企業の情報システム部門 ユーザ企業の情報セキュリティ管理部門	企業のセキュリティ対策	企業の情報システムは、クラウド、スマートデバイス、多様な雇用・就業形態の普及によって、ファイアウォールで城のように守る境界型セキュリティ対策では成り立たなくなっている。厳密なユーザ認証で確立したアイデンティティが、新たなセキュリティ境界になるといわれている。(Identity is the New Perimeter!)標的型攻撃への対応、働き方改革による社外からの業務システム利用、個人情報保護法の改正による個人情報の取り扱い、IoTの活用による外部からの脅威拡充、クラウドサービスの活用など、企業のシステム環境の変化や従業員の業務形態の変化に伴い、企業は今までのセキュリティ対策で十分と言えるか?十分でない場合、どのようなセキュリティ対策が必要であるかを提言する。
7	性能テスト	IT部門の管理者・担当者	最大の効果を得るための 性能テスト技術	システム性能の悪さは、システム利用者の満足度低下や、業務効率の低下を招くため、システム性能をいかに向上させるかは、近年最も注目される技術のひとつである。 本研究テーマでは、単にテストツールの活用といった範囲にとどまらず、要件定義、設計・構築、テストといった工程を通してどのようにシステム性能品質を向上させるかを議論、研究する。
8	ブロックチェーン	ユーザー企業のIT企画部門の管理者・担当者 ユーザー企業のITインフラ部門の管理者・担当者	ブロックチェーンっていったい何? 新たなビジネスモデルの探求	近年のFinTechの潮流の中で、大きな話題となった「ブロックチェーン」。ビットコイン等の仮想通貨や、その基盤技術であるブロックチェーンは、極めて斬新な技術であるものの、なかなか理解されにくく、依然多くの誤解が存在している。 また、何がすごいのかよくわからない人も多いため、まずは理解するところから始め、今後の展望、新たなビジネスモデル例から活用方法を探究する。
9	DevOps	ユーザー企業の情報システム部門、企画部門	「DevOps」の有用な活用方法を提言	多くの企業が情報システムを利用した価値の向上が求められている。 価値を高める情報システムを考えたとき、システムは、市場の反応に対応した連続した改善と、安定した稼働の両立が必要となる。 この相反する二つの要求を両立させるために「DevOps」の考えと精神を学び、現在の組織やプロセスをどのように変えていくべきなのか、その中で障壁をどのように乗り越えていくのかを研究し、提言する。
10	IoT、データ活用	情報システム部門、事業部門	IoT時代におけるデータ活用の 現実的運用を考える ～正当なデータ利用法と 企業利益の追求～	IoT実装時代が到来し、あらゆる企業のデータが収集され、利用され、売買する時代である。すでに、気象庁データ、訪日外国人SNSデータも月額数十万円で売買され、分析され、新たな付加価値を産み出している。しかし、同時に、利用許諾期間後の不正利用、不正アクセス等の手法を用いた情報取得も発生している。このような背景からも、来年度には、不正競争防止法の改正が予定されている。 私たちは、自社内に潜むデータの価値を見出し、どのように収集分析し、どのような新たな付加価値を産み出せば良いのだろうか。加えて、安全かつ正当な利用が必須である。本研究会では、データ利用の本質的な意義と価値を産む分析手法、創出される付加価値を再考し、企業組織における現実的な運用案を研究する。
11	IoT 現場業務支援	情報システム部門、事業部門	IoTを活用した現場業務 の品質向上 および業務処理期間 の短縮について考える	モノのデジタル化や位置情報・画像・音声等を作業現場と共有することができるようになってきた。今まで基幹システムで管理してきた、点検・巡視計画、故障修理対応管理等の情報をIoTと連携することにより、現場の管理、業務支援を高品質、短期間で実施するための方法と効果について研究する。
12	物流品質	物流業界・物流業務に関わる部門	将来の物流のあり方とそれを支える IT技術を考える	車両の自動運転もその実用化に向けて動き出している。IoTの進化によりさらに高度化する世界の中で物流はどう進化するのであろうか。ロボット活用、AIの活用など新たなサービス創出の可能性が高まっています。現行システムへの組み込みがどの程度まで可能であるかを検討する。また発生する将来の展開についても動向を探る。
13	若手技術者	若手技術者が職場で活躍するために (参加者の方々にテーマ検討)	若手技術者が職場で活躍するために (参加者の方々にテーマ検討)	これからのIT発展を担う技術者の人材育成は、企業にとって重要な施策である。 システムに携わる人材は技術スキル取得をメインに考えている傾向が強い。 しかし長い目で会社人生を捉えて人材育成視点、自己啓発視点を常に意識していく必要がある。企業の存在意義を確認することにより働き甲斐、生きがい、更に個人のパフォーマンスを発揮するために何が重要か? 入社4～5年生は会社に慣れこれから目指すもの、会社側から期待されていくためには参加者が自ら考え、テーマとなりをすべきかなど、方向性を検討・決定していく研究活動となる。